

刊夕 日六廿月三



定価一冊金... 月刊金五拾銭... 廣告料五拾銭... 印刷所 常警毒日新聞社

追善法要の由來と心得 (五)

眞 繼 雲 山

【問】中陰とは如何なる義でありますか、しばしば耳に致して居りながら譯柄を存じかねて居ります【答】中陰とは中有といふのと同義であります、先づ中有とは何ういふ意味であるかを申しあげませう。元來人が死ねば何もかも無くなつてしまふといふものではありませぬ。死ねばそこで死有といふ位に移ります。死有の位を経て前世の業に報はれ十界の内いづれかに轉生します斯く再生した位を生有と申します。この死有と生有との中程の位を中有と申したのであります。人一たび死すれば極悪のものは刹那にして地獄に墜ち、極善のものは直に天堂に登る、その以外のものは中陰四十九日の間に於いて十王の審判を受けて生處を決定されるといふのが十王經の説であります、(十王經の偽經云々は暫らく茲に問はず)極善、極悪のものを除き總じて中有の位を経なければならぬと致します。

【問】中有の位とは如何なる状態でありますか。【答】俱舍論、瑜伽師地論等の説によりますと、この中有とは一に意成といふて意より成るところの身であつて血や肉などといふ外縁が集まつてゐるものではない。二に求生といふて次の世は何ういふところへ生れるのであらうかと常に喜びて尋ね求めてゐる。三に食香といふて香だけを食うて生きる(註、それゆゑ四十九日の間は供物の形は滅らぬけれども毒日三度)の食事を供へねばならぬとされる)四に中有といふて死と次生との中間にあるところの蘊である。(蘊の字の説明は次項を御覽下さい)四に起といふて常に當に生れんと欲し次生に向つて起生する位にあると斯やうに説かれてゐます。(中陰の旅姿が何ういふものであるかは日本佛教新聞社發行、『冥途の旅日記、地獄極樂見物』(價壹圓)を御覽下さればよく分ります。

【問】中有のことを中陰とすか。【答】佛敎では私達人間は『五蘊の化和合によつて成つてゐるものだ』と申します。その五蘊とは色、受、相

行、識でありまして、これに一々『蘊』の字を附けますから色うん、受うん、相うん、行うん、識うんとなりませう。化和合といふのはその五うんが縁によつて假りに集まつてゐるのだと申すのであります。うんとは梵語塞健陀の譯であつて積集の義を有し平たく申せば、もゝといふほどの意味であります。舊譯には塞健陀を陰と譯してあります。梵語を譯したのでありますから五うんも五いんも同じ意味であります。そこで死有より生有にいたる中間のいんといふ意味で中いんと申し、その期間が四十九日間あると説かれてゐるのであります。

【問】さう致しますと中いんの壽命は四十九日間と定たつてゐるのでありますか。【答】いや、それよりも短いのであります。蜉蝣の壽命は一日、人生は五十年、牛馬は廿五年象の命は五百年といはれてゐますが、中有の身は前段の灌頂經にも申してある通り、その身小兒の如し、罪福未だ定まらずとあります程に弱々しいもので、七日が一期と定まつて居ります。即ち七日を越えて持つことは出来ませぬ。

感じの良い! 客に親切な...

藥種賣藥、工業藥品
衛生材料、各種染料
化粧品、其他

阿部藥舖

平・田町(松月堂)

有給外務員招聘

相當學力あり年齢二十才以上の者
經驗の有無を問はず眞面目な奮闘の士を求む

固定給を給與す 委細面談
片倉生命保險株式會社
平町鍛冶町代理店
牛久陽弘
電話三八七番

ゼアラの自轉車 代理店
宮田自轉車

平局御用 **エビスヤ自轉車店**

平南町 電話六六四番

◆宮田自轉車九年度郵便局納の五千二百輛

玉屋洋品店

平町田町通 電話六五六番

旭屋一六銀行

御利用を盛んに御取扱中

四百二十五番の電話次第
御便宜直様御取運び致します

新車御披露

三四年型デラックスセダンが
入荷致しました
貨切の御用命の節は
電話六八五番へ...
是非御試乗の程を願ひます

三井タクシー
電話六八五番

吸入用酸素素純度99%

モノサシ 体温計
ハカリ 寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

開内藥局
電話四〇番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

◆寫真材料一式販賣致シマス

月曜是非

焼土復興の助力

焼土に化した函館市の惨害は蓋し言語に絶するものがあるであらう、平町は取敢ず見舞金百圓を贈つた、機宜を得た處置であると思ふ。

函館は北方文化の中心地である、此の重要都市が今や烏有に歸した事は、國家の一大損失たるや言を俟たない、吾々は其の復興の一日も早きを祈念すると共に罹災者の痛苦を分擔して、共に起つの概を示さねばならぬ。

平町に於いても義捐金募集の計劃があり、既に佛教等華會は托鉢の舉についたが、是等の同情運動が、失意のどん底に陥ち込んで居る罹災者の入達に『渡る世間に鬼はない』との喜びを感じしむべき成功を博し得させたいものである。

不面目な一例證

家傳の秘藥、難治祈禱其他人の無智につけ入つて、甘い汁を啜らんとするインチキ療家が続々平署に檢舉される。

愚にもつかぬインチキ手段に依つて、不幸な病家の膏血を啜らんとするもの、心情憎むべし、されど又病床に苦吟する者の、生に對する執着健康を取り戻し度い一念は、溺るゝ者藁にもたよるのたとひに洩れず、みす／＼引ッ掛ることにもなる、それにしても、健康より恐ろしきは、愚かな

つた人間の一念である。醫師團等が主体となつて、無智の人々の迷夢を醒ますやう、積極的に働けば、インチキ療法等は司直の手を煩す迄もなく絶滅を期し得るではなからうか。

試験地獄のフタが開く

フタが開く

既報警中、平商、警女各學校入學考査は愈々明日午前八時半より開始されるが各校の受験者及び定員は左の如く何れも入學難を現出している。

警中(受験者)	三五七
定員	二五〇
平商(受験者)	一九五
定員	一〇〇
警女(受験者)	三八六
定員	二〇〇

受験の注意

第一の注意

明日の入學試験を控えて各小學校の受験児童はいづれも小さい胸を戦せてゐるが平第一校では本日受験児童を講堂に集め左の如き最後の注意を肯した

- 一、試験前日の心得
 - 試験の前日は決し、學科を調べたりしてはいけな
 - い心を落ちつけて夜は早く湯にはいつてぬるやうにしよう
 - 二、服装に就いて
 - 洋服ならホック釦を必ずつけておき出来るならカラをつけてなさい、和服なら必ず袴をつけ羽織の紐、下衣のシャツの釦をつま

一体インチキ療法等が流行する事は文化の程度の如何に低級であるかの一例證であり、不面目此上なく、是には當地方の名譽の上からも不問に附して置く譯にはゆかぬと思ふ。

小川江第一期工事 昨日完成を告ぐ

昨日完成を告ぐ

工費五萬二千三十圓を以て昨年七月初旬より江口忠一氏請負の下に工事中であつた小川江筋水路改修第一期工事大室、下小川、開場の三ヶ所は昨二十五日全く竣工した、第二期工事は来る十月頃着工の豫定である

鮫川水利 昨日鉄入式

昨日鉄入式

鮫川水利組では昨二十五日午前十時齋藤技師、古川常設委員立會の下に請負者加藤組の手により鉄入れ式を行った

理想郷建設 中堅農民協議

中堅農民協議

石城中堅農民講習生同窓會では二十九日午後一時から平町團体事務所樓上に於て役員會を開き春委總會開催の件理想郷建設の件に就て協議する出席役員三十名の

先づ神佛を禮拜しませう

休暇に入り 警中野練習を始め 球部では試験休暇に入つたので練習を開始すべく準備中であつたが昨二十五日早大田選手がコーチの爲來平したので同日午後一時から阿部主將以下二十名の部員が多田氏コーチの下に練習を行つた、尚ほ多田選手は約一週間滞在の豫定

小川江の總會 小川江堰水利組合の通常總會は三十日午前九時から平町團体事務所で開催し九年度豫算を付議する

財務協會開會 石城郡財務協會は來月二十一日の兩日平稅務署樓上で開かれる

農事練習修了 縣立農事試験場石城分場では來る三十日午前十時から今年度農事練習生の修了證書授與式を舉行するが修了生は二十名である向九年度練習生の入所式は四月十日舉行の筈

高久消防出役 高久村では皇太子殿下御降誕事業として同村小學校庭の土盛り及び堤防新設を行ふことになり昨二十五日から消防

組員約六十名が出役工事に着手した

平町長が出縣 青沼平町長は今二十五日福島市で開催の縣下町村長支會長會議に出席した

各會長が出席 警中校長小橋山久作氏は來る二十七日福島市教育會館の縣下聯合男子青年團長會議に石城教育會會長我直治氏は同日同所の教育會總會に平第二校長津田達清氏は來る二十八日同所に於て開かれる縣下聯合女子青年團評議員會に出席の爲め夫々出

張すると

平町人事

△杉平一六 泉田亮氏長男 重月

△長橋町三〇 太田保衛氏 五女英子

△立町六 鈴木作治五女富美

△彌宣町一〇 菊地貞造氏 (四四)永瀬ハルさん(三三)

△回死 亡

△十五丁目三〇 久保田トミ子

御通學には

魂の這入つた フタバの自轉車で

責任保證付。總クローラ 東京製新車 二十五圓ヨリ 一年保正中古車 十圓前後

フタバ式リヤカー發賣元 フタバ商會

見習生二名採用

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス

製造 賣販 硝子 食器 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番) 仙臺市琴町(電話五九七番)

復興途上の

函館に贈る

平町の義捐金

前後合して一千圓

平町では函館市大火の見舞金として二十四日金百圓を贈つたが更に一般町民から九百圓の義捐金を募集することになり二十六日午後一時から町役場會議室に平町各區長、男女青年團長、消防正副組頭、方面委員、平町婦人會長、愛國婦人會幹事を招集して右九百圓の募集方法を關して協議した尙函館市への見舞金は今回の九百圓とさきの平町からの百圓を合して都合千圓となる譯である

古河炭礦

逸早く送金

古河炭礦では函館大火の慰問金として従業員一同から募集した三百六十五圓七十五錢を二十四日函館市長宛に贈つた

平消防からも

防組では函館消防組罹災者に對し見舞金を贈ることになり二十四日井上組頭の名により懇篤なる見舞文とともに三十圓を同市消防組頭勝田彌吉氏宛に贈つた

磐炭募集計劃

磐城では二十五日午後一時から淺野記念會館に各支部幹部會を開き函館大火の義

ことになつて但し雨天順延
入山も下準備 入山炭礦でも慰問金を募集すべく自治會員等が主となり目下準備中である

磐炭青年

辯論大會

善華會 托鉢

明日全町を

磐城佛教善華會では明日平町を全町に亘つて托鉢して得たる金品を函館市に贈る

平第一の擔任

訓導本日決定

各學年受持訓導を本日左の如く決定した

- 一ノ一方丸莊之助、一ノ二石山クニ、一ノ三平塚ムメ
- 二ノ一樋口シヅ、二ノ二吉成朝重、二ノ三水竹仁、
- 三ノ一黒木リヤウ、三ノ二松崎吉太郎、三ノ三玉手祥子、三ノ四中村忠榮、四ノ一齊藤ユキヲ、四ノ二横田瀧藏、四ノ三松本正治、五ノ一井上佳都美、五ノ二仲村三郎、五ノ三根本榮雄、六ノ一鈴木康、六ノ二佐藤兼介、六ノ三上川恒平、六ノ四古川秀夫、高ノ一松本政夫、同二坂内伊貞、高ニノ一瓜田壽、同二大和田祐之、圖書手工專科鈴木嘉一、唱歌武藤貞輔、商業丹野哲夫

野鼠退治

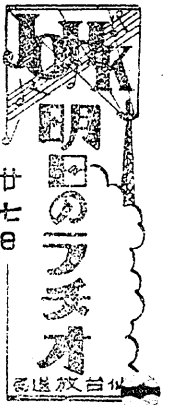
草野青年出動

草野村では最近野鼠が物凄く勢で蕃殖するため田畑の被害甚大である爲め同村農會では二十八日各部落青年を出動して全村耕地六百町歩の野鼠退治を一齊に行ふことになつた

路上に呻く

行路病人收容

東京市深川區黒井町東大工町生れ住所不定高橋ハナ(五)は二十四日午後一時頃平町長橋町九番地先道路で持病の腎臟病のため衰弱甚しく歩行困難となつてゐるのを平署員が発見行路病人



今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
「ホルトガルさんのお話」會田慶佐
後六、二五 講演「軍神廣瀬中佐に就て」海軍 將有馬良輔少年少女の夕
後七、三〇 童話劇 シグムンドと狼胡蝶座
後八、〇〇 空想座談會
後八、三〇 京城より童話
齊唱朝鮮話うぐひす會々員
後八、四〇 おとし話「英語の手紙」野村無名庵
後九、〇〇 童話ピアノ伴奏 四家文字
後九、一五 アツコーデイオン獨奏 小暮正雄
後九、三〇 時報
氣象通報 番付
明日の部
前九、一〇 料理献立 煮込み野菜のあんかけ 小林完
前一〇、三〇 家庭講座
「中年婦人の異常出血に就て」醫學博士 木村仁
後一〇、〇五 獨唱とピアノ
宮城女學校音樂專攻科卒業生
後二、〇〇 家庭大學講座
「新日本畫の描き方」望月春夫
後六、〇〇 子供の時間
後九、三〇 漫書物語 火の番小屋
前演漫書劇場
後六、三〇 三都對局新進
勝拔將棋大手合
後七、三〇 全國選抜中等學校野球大會選手 茶話會
會況中央公會堂より中繼
後八、〇〇 詩の朗讀「三本露風詩集より」荻野綾子
後八、三〇 管絃樂 日本放送交響樂團
後九、〇〇 長唄 雛鶴三番史 松永和風外大勢

乳房の失敗

嬰兒が窒息

好間村北好間字椎木平萩原炭礦長尾坑夫夏井一郎(三)は去る二十四日午前一時頃自宅寢室で生後九十七日の嬰兒一勝(三)と就寢中乳房を以て一勝の鼻口を壓し窒息壓死せしめた届出により平署より係官出張過失致死として取調べ中

中村牧師の卒業式感懐

平南町督教會牧師中村月城氏は去る二十四日舉行された平第二小學校卒業證書授與式に參列したの如き歌を即吟された

一、恩愛の君とわかるゝ、わびしさに純情の子等泣きぬれにける
二、懐かしき母校を後に巢立ちする少女の瞳くもりがちなる
三、瀧つせとなりて流る涙こそ師恩をおもう成ならむ

二坂の晝火事

二坂の晝火事

四日午後四時頃三坂村大字三坂字作田農高秋左門方から發火折柄の強風に忽ち同家一棟を全焼なほ燃え擴がんとしたが同村消防組の努力により同五時半鎮火した原因は竈の不始末から傍らの乾燥庫にも移つた爲で損害三千六百圓

好間唧筒購入

好間村古河炭礦では從來腕用ポンプを使用してゐたが消防機能が高く大事の場合には到底間に合はないので近くロータリー式十二馬力のガソリンポンプを購入することになつた

消火器を寄贈

橋本大嶺秀吉氏は本日第二小學校に備品として二億万円消火器一臺を寄贈された

裁判所たより

△相馬郡石神村生れ目下住居不定前科十五犯無職石川

酌婦走逃

前借七百圓を踏倒して

平町南町料理店旭屋こと引地善次郎方抱へ酌婦宮城縣

踏倒して

前借七百圓を踏倒して

酌婦走逃

前借七百圓を踏倒して

踏倒して

前借七百圓を踏倒して

平職業紹介所報告

人を求める方

- △荷馬車挽 日給一圓二三十錢位
- △出前持 十五才—二十才迄 月三圓—五圓位
- △回職を求める方
- △電氣職工 二十九才 商工卒
- △事務員 十九才 磐女卒
- △商店雜役 十九才 尋卒
- △事務員 二十六才 高卒
- △外交員 三十才 高卒

小店員數名募集

年齢十五才ヨリ優遇 御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ 平町田町一七 レストランサロン 電話三五二番

レストランサロン

電話三五二番

レストランサロン

電話三五二番

銘劍秘史

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百八十九回

徳川家に崇る村正

むづかしい役廻り

三吉は八藏を酔はせて話を探り出そうといふ考へたから旨い工合に勤めて酔はしてしまつた

三「おぢさん、時に前にゐた人は何といふ人だえ」

△「由松といふ男だよ、こりやねお前も剣術が好きだといふが、お前位のものぢやなかつた、まだ十三か十四の時だつたが道場の窓へ捉まつて、毎日々々見てゐたのだ、それから私が會つて段々聞いて見ると、可哀想な子で両親は死んでしまひ、伯父さんの處に厄介になつてゐるが伯父さんも貧乏で三度の飯もロク／＼食へないといふのだ、それからまあ可哀想だと思つて先生方に話をして家へ置いてもらつてやつたのだがどう／＼師範代の人達に取入つて剣術を教えてもらひ、何でも切紙とか目録とかまで進んだといふ事だつた、何しろ五年も一生懸命やつたのだから」

三「それぢやをぢさんなんぞもなんでがせうね、オツトウ／＼やる方なんで、八「ナニ、俺は駄目だ、この間の月見時のなんぞ、由



松は先生に呼ばれてお座敷で酒を頂いたが、俺は剣術を習はねえものだから、この仲間部屋で呑まなければならなかつた、今迄居る中に少し習つて置けば宜かつたと思つたが、今更ら駄目だお前なんぞは若けえんだら、歸つて來ねけりや濟ま

八「そうするが宜い」
三「それ程御恩になつた由松さんといふ人が何で暇を取つて行つちまつたんで、八「それだどうも俺には分らねえ、暇を取つて行つたんならまだしもだが、夜中にとび出して行つてしまつた、何一つ持つて行かぬえで、身体だけとび出しちまつたんだが俺には解せぬえ併し先生様は宜い人だ、それでも些とも怒んなさらねえで、何か深い事情があるだらう今歸つて來るなら、あんなに御恩になつたのだから、歸つて來ねけりや濟ま

爺さんに餌を食はしても無駄だ、危ねえ仕事だが奥へ踏み込んで何か證據の品を握つてやらうぞう」
思つたから酒を好い加減に切上げ
三「ぢや小父さんや晩くやつて又朝起られねえといけねえからこの位にしておきますべえ」
「まだ酒は澤山残つてゐるだがこれは小父さんの明日の晩の飲みしろにしますべえ」
八「濟まねえな」
その夜は寝て終ふ、三吉は五太夫の居間を調べようと思ふが却々五太夫が留守にしないので調べられない朝晩掃除の時にでも手文庫か何か一寸開けて見るが緩り調べる事が出来な、又さういふ證據になる様な品だつたら直ぐ目に附く様な所へ置く譯がないから流石の三吉も當惑した、或は佛壇を掃除してゐる内にふと思ひ付いたのは過去帳を調べる事だ、これを調べたら先祖がどういふものか分るだらうと四邊を見廻してそつと過去帳を取り出して、繰つて見たが戒名と年月日はいくつも書いてあるが俗名は記してないから更に分らない

三「こりやいけねえ、考へは我ながら一寸旨いと思つたが、こりや何の手掛にもならなかつた」
又元の所へ過去帳をしまふ處へ水上五太夫が這入つて來た
五「三吉、何をしてゐる」
三「へ、佛様のお掃除をしてをります」
五「そうか、まだ若いに感心だ」
三吉見附かつたかとドキツとしたが宜い鹽梅に見られなかつた様だ、ソコ／＼に掃除を済まして仲間部屋へ歸つて來た
三「小父さん、何だか家の先生は恐い人だね」
八「ナニ平生はそうでもねえが、只氣が短けえ人だから疳癪を起さねえ様に氣を付けなけりやいけねえよ」
三吉もこれは成程骨の折れるやつだと思つた。

から今の中にお願ひ申して教へてもらつたら由松ほどにならなくつても些つとは使へる様になるだらう」
三「へエ有難うございます其の内に伯父さんのお言葉添えて稽古をしてもらひますべえか」

ねえと、俺も思つてゐるんさ」
三「それはそうですがさういふ譯なら今に歸つて來ますべえ」
色々深つて見たが八藏爺さんは何にも知らないらしい「いこりや、けねえ、この

三「こりやいけねえ、考へは我ながら一寸旨いと思つたが、こりや何の手掛にもならなかつた」
又元の所へ過去帳をしまふ處へ水上五太夫が這入つて來た
五「三吉、何をしてゐる」
三「へ、佛様のお掃除をしてをります」
五「そうか、まだ若いに感心だ」
三吉見附かつたかとドキツとしたが宜い鹽梅に見られなかつた様だ、ソコ／＼に掃除を済まして仲間部屋へ歸つて來た
三「小父さん、何だか家の先生は恐い人だね」
八「ナニ平生はそうでもねえが、只氣が短けえ人だから疳癪を起さねえ様に氣を付けなけりやいけねえよ」
三吉もこれは成程骨の折れるやつだと思つた。

花柳病科 小兒科 内科
藤沼 醫院
町番 七〇 紺屋 五
町電話 五七〇
平電 五七〇
入院應需

吉田眼科病院
平紺屋町電話六八八番
眼科専門 院長 吉田 安雄
醫學士 吉田 久雄
金光堂時計店
平町五丁目(釜屋前)
電一九五

江戸前料理
烏金ぶら 大和漬
は軽くしてうまく味もよく滋養に富む
ぜひ一度御試食下さい
出前 錦水
迅速
電四五四番

ランドセル
手提カバン
◇小學生用靴各種◇
ランドセル 大 型 ¥.75
ランドセル 極大 型 ¥.90
ランドセル 特選 皮 ¥ 3.00
ツルヤ
平・四 電一四〇